

リオ+20に向けて学生からの提言

こんにちは、NPO 法人ごみじゃぱん・神戸大学経済学部 3 回生の横山大祐です。
今日はみなさんに伝えたいことがあり、このような場を設けさせて頂きました。

みなさんは 1992 年に開かれた地球サミットにおいて、わずか 12 歳の少女であるセヴァン・スズキさんが差し迫る地球環境の危機を訴えたことをご存知でしょうか。

スピーチの中で彼女は、

「私たち子供の未来を真剣に考えたことがありますか。」

と、大人たちが環境を破壊し続けたことを非難し、解決のための一歩を踏み出すことが重要だと僕たちに教えてくれました。

この 20 年間、世界ではたくさんの変化がありました。サミットは度々開かれ、地球環境問題について真剣な議論が交わされました。しかし、重要なことは条約をつくることだけではなく、どれだけ行動できたかだと思うのです。

省エネの技術や持続的な資源使用の必要性が認識され、少しずつ進んできてはいますが、それらをスピーディに実現していくのは、消費する側の行動と、それにこたえる企業や行政の行動であると思うのです。

例えば、みなさんはごみ問題についてどこまでご存知でしょうか。一般廃棄物の最終処分場の残余年数は 20 年もありません。その上、先の東日本大震災では大量の瓦礫ごみが発生しており、国土面積が小さい日本にとって、最終処分の問題はさらに深刻になっています。

こういった突発的な災害は、地震大国日本にとって、避けることができないリスクとしてとらえることが必要です。そのためにも、いかに日常の備えが必要であるか、つまり日常のごみの発生抑制をしていくことがいかに大切であるかを感じました。

この 20 年、多くの人が環境に対して出来ることをやろうと動き始めました。人々の意識や行動は、少しずつではありますが良い方向へ向かっていると感じます。そのような活動が広がるなかで、僕たちごみじゃぱんも活動しています。

具体的には、容器包装ごみの少ない商品を「減装商品」として推奨し、無理なくごみを削減することを目標としています。そのために実際に商品を購入して、容器包装を計測したり、店頭に出向いたり、様々な環境イベントに参加しながら、僕たちの思いや考えを生活者のみなさんにお伝えしてきています。

その活動の中で生活者の方々と直に話す機会を得たことはとても貴重なものとなっています。「どうしてこんなに過剰包装なのか？」生活者の中にはこのように率直な意見を持つ方もいます。行動しようとしている人が、無理なく実際に行動できる場を提供することが僕たちの役割だと考えています。僕たちの活動が、日々の生活の中でごみ問題を考え、他の環境問題についても意識するきっかけになることを願っています。

今まで関わってきた多くの方々が僕たちの活動に共感してくださり、様々なご協力やご支援をいただきながら、少しずつ減装商品や減装ショッピングの認知度は上がってきています。僕たちの活動は小さなものかもしれませんが、しかし、生活者、企業、国・自治体、人と人のネットワークがうまく働けば、小さな活動が大きく広がることを知りました。重要なポイントは、みんなが無理なく行動できる仕組みそのものなのです。

今、様々な環境問題が世界のあちこちで起きています。しかし、同時にこの問題を解決しようとする動きもたくさん起こっています。一人では届かないと思っていたことが今では十分届く時期にきています。今をあきらめるということは、未来をあきらめるということです。

僕たちは未来をあきらめたくありません。先送りにしてはならない問題が、今僕たちの目の前にあります。行動すべき時はどうにきているのです。

一緒に行動しましょう。

未来を創れるのは今の僕たちしかないのです。

ありがとうございました。

2012年6月11日 月曜日
「減装シンポジウムと未来へ」シンポジウム
環境省 第一会議室に於いて
特定非営利活動法人ごみじゃぱん 学生一同